だってナンダカ幻想郷

竜胆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
だってナンダカ幻想郷

【Ｎコード】
Ｎ１８７０Ｎ

【作者名】
竜胆

【あらすじ】
東方の二次作品。思いついたことをそのままに書いていくのです。
とりあえず今は竹林⇒永遠亭ルート

プロローグA（前書き）

注意、この作品は東方の二次作品になる予定です。
そういったものがお嫌いな方は、ブラウザの戻るをお願いします

プロローグA

「・・・やばいな。」

☆～～～☆～～～☆～～～☆

やあ、みんな、こんばんは。

あ、こんばんはっていうのは、みんなが見てるのが夜だろうなとか、作者が執筆してる今が夜だとかじゃなくて、今の俺の世界的な何かから見て夜なんだよ。

そうだ、自己紹介がまだだった！

俺は主人公、身長１７３ｃｍ　体重５３ｋｍ・・・まちがえた５３ｋｇ

年齢？ちょ、そんなこと聞くなよぉ（照）。まあ、百まで生きると考えたら、あと五年以内に五分の一くらい人生を送ってることになるね。

好きなものは、お金と愛とガラムマサラ。嫌いなものは、面倒なこと。

どーだい？俺のことがよくわかっただろ？

さあ、初っ端からこんなんだけど、実は俺・・・

絶賛迷子中！

あ、そろそろ中の世界に戻るわ。

んじゃあねー　ノシ

☆～～～☆～～～☆～～～☆

あたりは真っ暗。

真夏だというのに、虫の鳴き声などがまったく聞こえずに、あたりは静寂を保っている。

今日泊るはずだった家の宿主、友人の助けに来る気配もない。

「こういうときはじっとしてる方がいいんだっけか？」

あまりにも不気味すぎるが故に、思ったことは口から勝手に出て行ってしまう、それも早口で。

この風景の中のただ一つの変化は、自分の動作。

あたりは昼間であれば、深い緑に覆われているのだろうが、今なら生い茂る植物はだれが視ても黒でしかない。いや、むしろ視えないか。

あまりの暑さと、軽く二時間は歩き回った疲労感。

昼間の海水浴の疲労も手伝い

「ああ、しんどい。」

体が傾く。

ここで、意識は途切れる――――

プロローグA（後書き）

プロローグ二分割とかどうよ？
まだ東方関係ねーな、これ

プロローグB

「・・・ヒト？」

いつもどおりに人里に薬を売りに行く道中、いつもと違うこの状況

こういうときは・・・どーすればいーんだっけ？

竹林の中に倒れているヒト・・・

幸い薬はたくさん持ってる

そう

救えるうのは！

私だけ！！

とりあえず師匠の薬を飲ませる（意識がなかったので無理やりに）

あ！

・・・これって何の薬だっけ？

あれ？なんか・・・やばい・・・気がする

と、兎に角！

どこか安静にできる場所で介抱しないと！

ここからは人里の方が近い・・・けど

でも、師匠にいち早く診せた方が・・・

ああ！どーしよー（泣）

☆～～～☆～～～☆～～～☆

☆～～～☆～～～☆～～～☆

ん

？ここは――

・・・兎耳？

あれ？竹？なにここ？誰、この耳？

体を起こす、なんかあちこち痛い、特に太ももが痛い

この痛みはまさか

筋肉痛！？

フ、フフハ

ハハハ

フハハハハハ！

舐めていたよ、所詮田舎だと

だが、俺の自慢の太ももを筋肉痛にさせるとはな

こいつぁびっくりだ

おい田舎道、お前に敬意を払って、ここからは全力で休憩を挟みながら歩いてやｒ

「って、起きてるーー！！」

兎耳ブレザーにツッコまれた・・・

いや普通の意味で？

「大丈夫ですかなにがあったんですかなんでこんなところにたおれてたんですかけがとかありませんか気分は悪くないですかなにがあったんですかー！！」

「え、ちょ、待って、落ち着いて」

しばらくこのようなやり取りを何回か繰り返して、なんとか落ち着いてもらうことに成功した。

恐るべし深呼吸！

「というわけで、俺は迷子になって彷徨ってたのです。」

「なんで胸張って言ってるんですか・・・」

「で、俺の友だちの家はどっちなんでしょう？」

「それが・・・あなたの話となんかかみ合わないんですよ」

「・・・へ？」

「多分師匠ならもっと詳しいことがわかると思いますので、そこまでついてきてもらえます？」

「あ、うん、了解です。」

こうして舞台はあの場所へ！！

プロローグB（後書き）

プロローグCに続く・・・だと？
メインお空にしたいのに、どうやって舞台を地底までもっていこうか？

プロローグC

「どうやら外の世界から来たようね。」

紺赤色の人に言われた。

「確かにこの辺には住んでないですけど、外の世界とかってあれですよ、中二病っぽいですよ。」

「ちゅうに病？聞いたことがない病名ね・・・どんな病なのかしら？」

「さっきのあなたの発言が初期症状です、そのうち世間を学んで自然に治ります。」

「・・・」

「・・・」

「し、師匠？この人が倒れていた場所は、外の世界への出口がないはずじゃあ・・・」

「そうね、迷い込んで竹林まで歩いてきたのか、あるいは人為的な要因か・・・」

「結局帰り道はどっちになりますか？」

「今日のところは帰れそうにはないわよ。」

「そっすか、じゃあ宿の提供を願いたい。」

「・・・いいけど、なんでそんなにサラリと納得できるのか疑問ね。」

「『なるようになる』が座右の銘でして。」

「師匠、この人なんかおかしいです・・・」

とても失礼なことを目の前で言われた。

「鈴仙、ちょっと来なさい。」

「はい・・・」

部屋を出て行く兎耳と紺赤さん

そして俺しかいなくなった。

☆～～～☆～～～☆

プロローグC（後書き）

短め。
Dに続くよ

プロローグD

師匠に呼ばれて後をついていく私。

いったいなんなんだろう？

はっ！

まさか、人間を薬で助けたことを褒められるのかな？

そして、その流れで師匠と・・・うふ、うふふふ

あぁぁ！ししょぉー（以下規制

部屋からずいぶん離れて師匠が立ち止まる。

「ウドンゲ、あの人間に薬を飲ませたかしら？」

「はい！飲ませました！！」

「そう・・・１１番、６３番の他に２６番の薬が一錠減っていたのだけど？」

「はい！なんで倒れてたのかわからなかったのでいろいろと飲ませました！」

「やっぱり・・・それが原因かしらね。」

師匠はそう言いながら深いため息をついた。

あれ？予想と違う・・・

☆～～～☆～～～☆

やはりウドンゲのせいか？

あの人間は、ある「程度の能力」もっていた。

本来、外の世界の人間が能力を所有するはずがないのに・・・

私の薬箱の２６番、妖怪専用の薬だ。

人間に飲ませたことはなかったから、まだ確定したわけではない。

だがそれ以外にあの人間が、「能力」をもっている理由がわからない。

やはり、あの薬が人間に能力を・・・

そして、あの人間・・・

能力をもったまま、あっちの世界に帰してもいいものかしら・・・

とりあえずウドンゲはお仕置きね。

☆～～～☆～～～☆

取り残されて１０分は過ぎた・・・

俺はどうすればいいのだろうか？

やることもないので、右手と左手でじゃんけんをやり続けていたが勝負がつかない

いかん、飽きてきた。

いや、１０分もよくやった方だろう。

仕方ない、別のことをしようと思い、リュックを開けてみる。

流石は俺だ・・・

中には、あきらかにリュックのキャパシティーを超える量のものが入っていた。

そのなかの６割は、ハッ○ーターンと、カン○リーマァムだった。

袋を開けてハッ○ーターンを食す。

７年間ほど、ハッ○ーターンの粉の原料を考えては実験し、作ろうとしていたが・・・

「この旨さは真似できんなぁ――」

思わず呟く俺であった。

プロローグD（後書き）

プロローグ編、終☆了

次回は誰をだそうかな？

姫？てゐ？もこ様？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1870n/

だってナンダカ幻想郷

2010年10月10日21時34分発行